

令和4年度 校長だより 第5号

1 夏休み

夏休みの真っ最中、まだまだ休みが続くような気がしますが、時間は確実に過ぎていきます。1学期終業式でお話しした本の言葉を紹介します。

「私たち人間は、お金持ちでも貧しくても、自分の人生の持ち時間が有限であることに変わりありません。何かに時間を割くことは、別のこと割けた時間を失うことを意味します。自分の人生における優先順位を決めて、そこから演繹的に行動を引き下ろしていくべき、決断が一貫します。」

2 「夢への扉は心の中に」

先日、講演を聞かせていただいた宮本延春先生の著書から、「夢への扉は心の中に」という内容の文を紹介したいと思います。

夢や目標を見つけるヒントは出会いともうひとつ、自分の心の中にあります。自分の心の声に耳を澄ませて自分と会話してください。心に寄り添ってみてください。何かが聞こえて見えてくるはずです。自分が本当にやりたいこと、したいこと、そして、なりたい自分の姿がおぼろげながら見えてくるはずです。

もし何も見えてこなくてもだいじょうぶです。いつか、必ず見えるものに出会うことができます。

大切なことは自分と向き合うことです。自問自答することです。心のドアをノックして開くことです。自分との会話を繰り返すことで、必ず自分の夢が見つかり、その形がはっきり見えてくるようになります。

自分の心はいま、なんと言っているのか、耳を澄ませて聞いてあげてください。そこには夢への扉が待っています。夢への扉はきみに心の中にあるのです。そしてそれは、きみの人生を輝くものにする宝石箱のふたなのです。

勇気を持って自分の中の宝石箱を見つけて、そのふたを、夢への扉を開けてみてください。

ぼくという人間は、この世界にたたひとりだけです。同じように、きみにも自分以外の人生は存在しません。きみもぼくもすべての人は、一度きりの人生と、二度と帰ってこない時間を生きているのです。

自分だけの宝石箱を見つけて、他人ではなくきみ自身が納得できる人生を歩むことができれば、自分に誇れるすばらしい人生になると信じています。きみならできるはずです。

夢や目標の詰まった宝石箱はひとつだけとはかぎりません。また、年月とともに形を変えていくこともあります。しかし、夢を手にした人と、そうでない人には大きな隔たりがあります。

夢や目標を持ち、自分の可能性を否定しなければ、道は必ず開けるはずです。そして、それに向かって努力する、そんな君の人生は、必ず実り豊かなものになります。

自分を信じて、前に進んでください。きっとそこには、未来のきみが待っています。

きみが心に決めた目標を持つとき、きみの可能性は最大限に開花する。

ぼくはそう信じています。

(宮本延春著『未来のきみが待つ場所へ 先生はいじめられっ子だった』)

<著者プロフィールから>

1969年、愛知県生まれ。小学生の時、いじめで学校嫌いになる。中学1年の成績表はオール1。18歳で両親と死別、天涯孤独の身となる。23歳のときに偶然見たインシュタインのビデオに衝撃を受け、小学生の勉強からやり直し、24歳で私立豊川高校定時制部に入学。恩師や周囲の支えもあり、27歳で名古屋大学理学部に入学、物理学を学ぶ。研究者の道を考えていたが、自分だからこそできることは、落ちこぼれの子どもの気持ちがわかる教師ではないかと思い直し、母校の高校教師になる。